

太宰府市俳句。ポスト第百十一回入選者

(令和三年に五月五日、令和三年八月十日)

選者 阿比留 初見

入選句

強欲な願ひに神の大夕立

(久留米市)

川尻 優衣

五輪てふ熱気のままに原爆忌

(小郡市)

宮原 勝彦

つつじ咲き初むる旅人の屋敷跡

(福津市)

柴田 佳津子

句碑寂びて蟬鳴くばかり観世音寺

(福岡市)

阿部 弘子

曲水の庭に遊ぶや歌詠鳥

(朝倉市)

井上 義昭

日の斑散る日傘に偲ぶ人のあり

(太宰府市)

白石 照子

禅林に蟬の骸と抜け殻と

(福岡市)

大津 英世

延寿王院門より覗くこいのぼり

(大阪市)

林 裕哉

花菖蒲影まで伸びて池広し

(京都府)

永戸 真史

山門の出会いがしらの夏の蝶

(福岡市)

山口 裕子

国博の玻璃にくつきり夏の雲

(筑紫野市)

馬場 三知子

初蟬にこころ通はせめる宮居

(小郡市)

斉田 日奈江

緑蔭の深さに風の迷ひたる

(福岡市)

西村 芳山

ローションを匂はせ追ひ越す木下闇

(太宰府市)

土師 墨徳

形代を納むる煙天を突く

(太宰府市)

有岡 和砂

おるすばんそつとおてがみははのひに

(太宰府市)

ごとう みな 六歳

ははの日にお手がみあげるたのしみだ

(太宰府市)

わたなべ あやか七歳

ランドセルおもいおもいといちねんせい

(大野城市)

みさわ なお 七歳

かしわもち葉っぱをまいてできあがり

(太宰府市)

二宮 晴 八歳

ひらひらとせむしはまはるるこころうあど

(筑紫野市)

なかむら ともや十歳